

政策決定過程が議会信頼に与える影響について ——シナリオ実験を用いた検証

中谷美穂

政策決定過程が議会信頼に与える影響について
：シナリオ実験を用いた検証
(定例研究会報告)

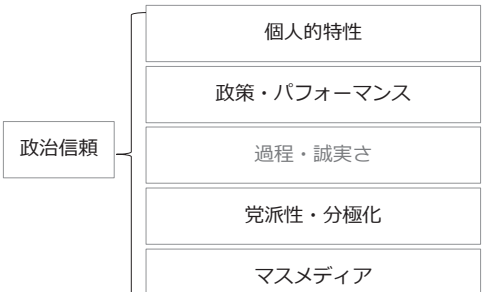
政治学科 中谷 美穂



Outline

はじめに	リサーチ クエスチョン	仮説
方法	検証	今後の課題

政治信頼の規定要因 (Citrin and Stoker, 2018)



政治信頼

- 個人的特性
- 政策・パフォーマンス
- 過程・誠実さ
- 党派性・分極化
- マスメディア

プロセスを焦点化する意義

(1) 現実への示唆：
議会信頼⇒政策の受け入れ (Rudolph, 2017)
今後の自治体統治におけるプロセス/合意形成の重要性 (逼迫している財政状況・住民の多様性によるサービス実施・統合縮小)

(2) 学術的貢献：
政策過程への人々の選好研究の蓄積
結果がよければ過程を重視しないか？

←手続き的公正 (Procedural fairness/ justice) 研究

手続き的公正感とその効果

手続き的公正感：
適切な手続きとの規範による公正判断
(Lind and Tyler, 1988: 3)

方法論・領域を超えて頑強な効果：
“決定前の意見を言う機会は公正感を高める”
“手続き的公正感により結果の満足感が高まる”
“手続き的公正感により権威者への評価が高まる”
(Lind and Tyler, 1988: 204)

手続き的公正の基準 (Tyler, 2000: 121-122)

- 1) 参加の機会：
問題解決のためにどうすべきか、意見を提示する機会が与えられること
- 2) 中立性：
権威者が扱う対象に誠実で客観的であり、個人的価値観や偏見ではなく規則や事実に基づいて決定すること
- 3) 権威者の信頼性：
権威者に善意と思いやりがあり、人々の状況や関心、必要性を考え、人々の議論を考慮し、人々にとって正しく公正であろうとしていること
- 4) 人々に対する敬意を払った対応：
人々の尊厳を認め敬意を払った対応をしているか否か

権威者への評価や信頼に対する
Tylerの4要素の効果（政治対象限定）

1) 参加の機会：

Tyler & Caine, 1981; Tyler et al., 1985; Wu & Wang, 2013; Ulbig, 2002

2) ~ 4) 中立性, 権威者の信頼性, 人々に敬意を払った対応：

Tyler, 1994; Ulbig, 2002; Grimes, 2006

先行研究・手続き的公正研究の課題

1) 参加の効果に関する議論の存在
3つの効果の存在

2) 議会審議過程の公正要素の検証の偏り
中立性が主となり、どのように決定に至ったのか検討していない

3) 自分にとって不利な決定における検証の不十分さ：手続き的公正条件が信頼にどれほど影響を与えるのか、条件の違いでどの程度変化するのか、検証不十分

1) 参加の効果に関する議論

「道具的効果」：結果に影響を持つと感じられるので参加が効果を持つ (Thibaut and Walker 1978)

「価値表出効果」：結果に影響を持たなくとも、集団の一員としての価値が認められるため効果を持つ (Lind and Tyler 1988)

「フラストレーション効果」：結果に影響を持たない参加にフラストレーションを感じ、マイナスの効果を持つ (Folger 1977; Folger et al. 1979)

先行研究では効果が見られている一方、政治学では、結果に影響を持たない参加の効果について否定的な見方あり(Hibbing and Theiss-Morse 2002; Ulbig 2008)。

2) 議会審議過程の公正要素

「中立性」「権威者の信頼性」
「人々に対する敬意を持った対応」
⇒意思決定者のある種の協調や妥協を示唆 (Gangl, 2003)

⇒幅広い視点で検討され、合意に至ったのか、あるいは会派にこだわり多数決か

しかしながら
どのように決定に至ったかは検討されていない

3) 不利益な決定下での手続き的公正感

・先行研究


⇒結果に対する好意度や政策への満足度を考慮しても、手続き的要因が権威者への評価や信頼に結び付いていることを示す

<しかし>

どの程度の信頼が得られるのか、
手続き的公正の条件でどの程度変化するのか、
詳細な検討はなされていない。

本報告での対応



- 1) ← 参加の効果を検討
- 2) ← 議会審議における合意の有無を公正条件に含める
- 3) ← 利益・不利益条件を含めて、不利な決定の際にどの程度、信頼が得られるのか
公正条件によって議会への信頼がどの程度変化するのか確認する


?
?

リサーチエスチョン

リサーチエスチョン

- ・政策決定過程において、手続き的公正要素があることで議会への信頼は高くなるのか


- 1) 決定前の参加の機会 
 - ← Tylerの公正要素1
- 2) 議会における会派を超えた合意 
 - ← Tylerの公正要素2, 3, 4


- ・自分にとって好ましくない決定を受ける場合でも効果は見られるのか、それはどの程度か
- ・どの参加の効果が見出されるのか


?

仮説

仮説 1 と 2（手続き的公正条件と信頼）

仮説 1：利益・不利益条件いずれにおいても、参加条件（決定前の住民参加）がある方が、政策を決定した議会への信頼は高くなる 


仮説 2：利益・不利益条件いずれにおいても、合意条件（議会審議における会派を超えた合意）がある方が、政策を決定した議会への信頼は高くなる 

仮説 3（参加の効果について）

仮説 3 - 1（道具的効果）：
 事前に住民参加の機会 + 会派を超えた合意
 > 住民参加の機会 + 合意に至らず多数決

仮説 3 - 2（価値表出効果）：
 事前に住民参加の機会 + 合意に至らず多数決
 > 住民参加の機会なし + 合意に至らず多数決

仮説 3 - 2'（フラストレーション効果）
 事前に住民参加の機会 + 合意に至らず多数決
 < 住民参加の機会なし + 合意に至らず多数決


?
?

方法

実験デザイン

- 2 (結果条件: 利益 vs. 不利益)
- ×2 (手続き/過程条件: 参加あり vs. 参加なし)
- ×2 (手続き/過程条件: 合意あり vs. 合意なし)

		利益	不利益
参加あり	合意あり	T1	T5
	合意なし	T2	T6
参加なし	合意あり	T3	T7
	合意なし	T4	T8

使用データ

楽天インサイトパネルに2018年9月27日から10月1日に実施

20歳から69歳までの日本の有権者

サンプルサイズ: 1000

年齢 (5歳刻み10区分)、性別、8地域区分による割当抽出。

回答時間下位 5%の切り捨て

オンライン・シナリオ実験

「現実の状況を想定しながら、下記の文章をお読みください。関連する質問が次にあります」

T1 シナリオ

結果条件

あなたが住んでいる家のすぐ後ろの道路が拡幅されて、主要道路になることになりました。あなたは、車で隣町まで通勤しています。

この道路整備によって、あなたの通勤時間はだいぶ改善されます。

参加条件

この政策は住民間で論争的であったため、上のように決定する前に、市区町村議会が住民との意見交換会を各地で開き、住民の意見を聞く機会がありました。それは誰でも参加できる場で、あなたも参加していました。

合意条件

議会では意見交換会を踏まえて、様々な側面から会派を超えた話し合いが行われ、最終的に各会派が参画寄り、全会一致で道路の拡幅が決定しました。

利益vs.不利益

決定による利益	利益	あなたが住んでいる家のすぐ後ろの道路が拡幅されて、主要道路になることになりました。あなたは、車で隣町まで通勤しています。 この道路整備によって、あなたの通勤時間はだいぶ改善されます。
不利益	不利益	あなたが住んでいる家のすぐ後ろの道路が拡幅されて、主要道路になることになりました。あなたは、自転車で隣町まで通勤しています。 この道路整備によって、あなたの通勤時間は変わりません。むしろ、住環境が悪化します。

- ・ 決定によるメリット・デメリットの提示
- ・ 道路拡幅を対象；どの自治体でも起こりうる争点
⇒ 「被験者が既に経験したことがあり、理解できるような状況を扱うこと」が重要 (Lind and Tyler 1988)

参加ありvs.参加なし

決定前の住民参加	有	この政策は住民間で論争的であったため、上のように決定する前に、市区町村議会が住民との意見交換会を各地で開き、住民の意見を聞く機会がありました。それは誰でも参加できる場で、あなたも参加していました。
無	無	この政策は住民間で論争的でしたが、上のように決定する前に、市区町村議会が住民の意向を聞く機会などは、特に設けられませんでした。

- ・ 議論が論争的であることを示す
- ・ 「有」条件の場合、自分も参加した設定

合意vs.合意なし

審議過程での合意	有	議会では意見交換会を踏まえて、*様々な側面から会派を超えた話し合いが行われ、最終的に各会派が参画寄り、全会一致で道路の拡幅が決定しました。
無	無	議会では、各会派が支持者の意見を代表するべく意見を譲らず、最終的に多数決で、人数の多い会派の意向に沿った決定(道路の拡幅が決定)となりました。

- ・ Tyler(2000)の3要素「中立性」「権威者の信頼性」「敬意を払った対応」に沿うようにあるいは背くように記述

従属変数

決定した議会への信頼:

「この決定を行った議会に対するあなたの信頼感はいかほどでしょうか。」

非常に信頼できる			どちらともいえない			全く信頼できない
1	2	3	4	5	6	7
○	○	○	○	○	○	○

→分析では逆数値化

25

分析結果



26

議会信頼の規定要因（仮説1と2）

変動因	平方和	自由度	平均平方	F値	有意確率	η^2	効果
決定による利益	81.796	1	81.796	44.709	p<.001	0.04	小
決定前の住民参加	224.676	1	224.676	122.806	p<.001	0.10	中
議会審議における合意	85.264	1	85.264	46.605	p<.001	0.04	小
利益×参加	0.016	1	0.016	0.009	n.s.	0.00	
利益×合意	0.036	1	0.036	0.020	n.s.	0.00	
参加×合意	34.596	1	34.596	18.910	p<.001	0.02	小
利益×参加×合意	3.136	1	3.136	1.714	n.s.	0.00	
誤差	1814.880	992	1.830				
総和	2244.400	999					

参加と合意について単純主効果の検定を実施
 ・参加「有」→合意「有」・「無」どちらに対しても有意
 (合意「有」: 偏 $\eta^2 = .107$ 、合意「無」: 偏 $\eta^2 = .022$)
 ・合意「有」→参加「有」のみ有意 (偏 $\eta^2 = .059$)

27

リサーチエスチョン1への応答

・政策決定過程において、手続き的公正要素があることで議会への信頼は高くなるのか

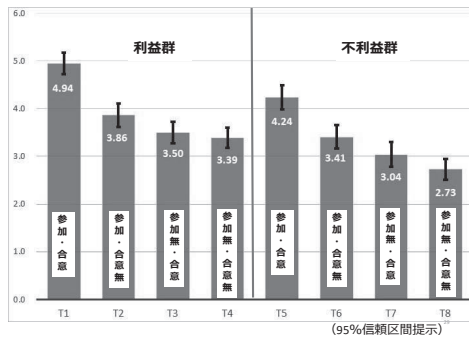
参加条件 → 決定した議会への信頼↑

合意条件 → 参加ありの場合 決定した議会への信頼↑

* 参加あり・合意あり > 参加なし・合意あり
 T1>T3, T5>T7 代理型 > 信託型の代表スタイル?

28

決定した議会への信頼（平均値比較・7点尺度）



リサーチエスチョン2への応答

・自分にとって好ましくない決定を受ける場合、効果はどの程度か

T5 > T3, 4, 6, 7, 8

T5 ≠ T2

⇒一部利益条件 (T3: 参加なし・合意あり、T4: 参加なし・合意なし) よりも信頼度合いが高い
 また、T2 (参加あり・合意なし) とは差がない

リサーチクエスチョン3 (参加効果)

仮説3-1 (道具的効果) : $T1 > T2, T5 > T6$ 両方

事前に住民参加の機会+会派を超えた合意
 > 住民参加の機会+合意に至らず多数決



仮説3-2 (価値表出効果) : ~~$T2 > T4$~~ , $T6 > T8$ 不利益群のみ

事前に住民参加の機会+合意に至らず多数決
 > 住民参加の機会なし+合意に至らず多数決



仮説3-2' (フラストレーション効果) ~~$T2 > T4, T6 > T8$~~

事前に住民参加の機会+合意に至らず多数決
 < 住民参加の機会なし+合意に至らず多数決



結果

1) Tyler(2000)で提示された「参加の機会」と3要素を踏まえた「議会審議における合意」があると、不利益決定下においても議会信頼を高める

⇒先進議会の試みが議会信頼を高める可能性
 (意見交換会→議員間討議→定例会で決議)

2) 参加の道具的効果は両方の条件がある場合、価値表出効果は不利益条件のとき ($T6 > T8$)
 ただし、 $T6$ の「信頼できない」(48.8%)

⇒参加が議会審議で考慮されてこそ「信頼」が増える

今後の課題

争点:

- ・ 道徳的価値観が活性化される争点での検討
- ・ 利益・不利益の割当→自分の意見との一致

参加条件:

- ・ 自分の参加もしくは参加の機会か
- ・ 参加の場に対する公正プロセスの基準の検討

合意条件:

- ・ シナリオ (意見交換会を踏まえて) 文言の問題
- ・ 「会派を超えた話し合い→合意」と「会派を超えた話し合い→多数決」の違い
- ・ 個人要因の検討 (政党支持の有無)

References

- Citrin, Jack and Laura Stoker (2018) "Political Trust in a Cynical Age," *Annual Review of Political Science* 21(1): 49-70.
- Folger, Robert (1977) "Distributive and Procedural Justice: Combined Impact of Voice and Improvement on Experienced Inequity," *Journal of Personality and Social Psychology* 35(2): 108-119.
- , David Rosenfield, Janet Grove and Louise Corkran (1979) "Effects of "Voice" and Peer Opinions on Responses to Inequity," *Journal of Personality and Social Psychology* 37(12): 2253-2261.
- Gangli, A. (2003) "Procedural Justice theory and Evaluations of the Lawmaking Process," *Political Behavior*, 25(2), 119-149.
- Grimes, Marcia (2006) "Organizing Consent: The Role of Procedural Fairness in Political Trust and Compliance," *European Journal of Political Research* 45(2): 285-315.
- Hibbing, John R and Elizabeth Theiss-Morse (2002) *Stealth democracy: Americans' Beliefs about How Government Should Work*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Lind, E.A., and Tyler, T.R. (1988) *The Social Psychology of Procedural Justice*, New York: Plenum.
- Rudolph, Thomas J. (2017) "Political Trust as a Heuristic," in Zmerli Sonja and Tom W.G. van der Meer (eds) *Handbook on Political Trust*, Cheltenham, UK: Edward Elgar Publishing, 197-211.

- Sitka, L.J., and Mullen E. (2002) "Understanding Judgments of Fairness in a Real-World Political Context: A Test of the Value Protection Model of Justice Reasoning," *Personality and Social Psychology Bulletin*, 28(10), 1419-1429.
- Thibaut, John W and Laurens (1978) "A Theory of Procedure," *California Law Review* 66: 541-566.
- Tyler, T.R. (1994) "Governing amid Diversity: The Effect of Fair Decision-making Procedures on the Legitimacy of Government," *Law & Society Review*, 28(4), 809-832.
- (2000), "Social Justice: Outcome and Procedure," *International Journal of Psychology* 35(2): 117-125.
- and Andrew Caine (1981) "The Influence of Outcomes and Procedures on Satisfaction with Formal Leaders," *Journal of Personality and Social Psychology* 41(4): 642-655.
- , Kenneth Rasinski and Nancy Spodick (1985) "Influence of Voice on Satisfaction with Leaders: Exploring the Meaning of Process Control," *Journal of Personality and Social Psychology* 48(1): 72-81.
- Ulbig, Stacy G (2002) "Policies, Procedures, and People: Sources of Support for Government?" *Social Science Quarterly* 83(3): 789-809.
- (2008) "Voice Is Not Enough: The Importance of Influence in Political Trust and Policy Assessments," *The Public Opinion Quarterly* 72(3): 523-539.
- Wu, Xuan-Na, and Wang, Er-Ping (2013) "Outcome Favorability as a Boundary Condition to Voice Effect on People's Reactions to Public Policymaking," *Journal of Applied Social Psychology*, 43, 329-337.